

## 保護猫たちの実態

一年 谷本 悠

僕の祖母は、ルーちゃんという名前の猫を飼っています。ルーちゃんは、祖母の友人から譲ってもらったそうで、今年で二十歳になりました。僕たちが遊びに行くときすり寄ってくるので、とてもかわいいです。

僕は今まで、ルーちゃんのような家庭で飼われている猫しかいないと思っていましたが、テレビ番組で保護猫のことが取り上げられていて、殺処分されてしまう猫もいることを知りました。僕は、罪もなく殺されてしまうなんてかわいそうだと思います。

僕は、なぜ猫が殺処分されてしまうのか、その原因を調べてみました。主な原因は、飼い主が不妊手術を怠ったために、飼いきれないほどの数に繁殖してしまう多頭飼育崩壊だということが分かりました。また、飼い主が先に他界してしまい、猫の面倒を見る人がいなくなってしまうったり、引越越し先のマンションなどがペット禁止で飼えなくなってしまうこともあるそうです。その他にも、初めは小さくかわいかったが、成長し体が大きくなると、かわいく感じられなくなり捨てられてしまったり、猫が病気になり、経済的な面で飼うことができなくなってしまうこともあるそうです。しかし、どのような理由

があろうとペットを捨てることは犯罪です。僕は、将来ペットを飼うことになったら、絶対に捨てるに最後まで責任を持って面倒を見たいと思います。

環境省のホームページに載っている統計資料によると、令和二年度の猫の殺処分数は二万頭で、譲渡や返還される猫の数は二万五千四百頭となっています。統計を開始した昭和四十九年度から比べると、殺処分数はかなり減っていました。さらに、殺処分数より譲渡や返還される猫の数の方が多いことが分かりました。僕は、このような状態が続き、今後も譲渡や返還される猫の数が増えていくといいなと思います。

僕はテレビ番組で、捨てられてしまった猫たちを保護する活動を行っている人がいることも知りました。その中の一人が芸人のサンシャイン池崎さんです。サンシャイン池崎さんは、保護猫の風神と雷神を飼っていて、その他にもセンターで保護された猫を預かり、人に慣れさせてから譲渡会などで新しい飼い主に引き渡す活動をしています。

僕が今、保護猫たちに出れることは、SNSなどで保護猫たちの実態を知らない人に伝えることです。そうすることで、保護猫について関心を持ってもらい、動物愛護団体へ寄付してもらったり、ボランティアに参加してもらう人が増えるといいなと思います。そして、一匹でも多くの命が救われるといいなと思います。